

■徳川慶勝 とくがわよしかつ シボム 鳴滝塾 1824＝	大名(名古屋藩主)。将軍家親族ながら藩論を朝廷方に統一。維新後は北海道開拓支援、写真家でもあった。 江戸四谷の藩邸で、名古屋藩支藩美濃国高須藩十代藩主松平義建の次子に生まれる。母は水戸徳川家治紀の女規姫。幼名慶恕。兄の夭折により高須家の嫡嗣となる。
シボム 事件 ・1828＝ 4歳	叔父の水戸藩主徳川斉昭の感化を受け、幼時より賢明の聞こえ高く、読書に親しみ、詩作・武技を好む。
富嶽三十六景 1831＝ 7歳	弟茂徳が誕生。
天保大飢饉始 1833＝ 9歳	
滑稽+人情本 1835＝11歳	弟容保が誕生。
大塩平八郎乱 1837＝13歳	
天保改革弾圧 1842＝18歳	
阿部正弘首座 1845＝21歳 孝明天皇・ ・1846＝22歳	弟定敬が誕生、 三人の弟もいずれも優れ、高須四兄弟と呼ばれ、のちの維新時に歴史に名を遺す存在となる。
北斎没 ・ ・ ・1849＝25歳	掃部頭。*名古屋藩士民の衆望を担って、幕府からの養子が続いたあとの尾張徳川家十四代当主になると、九代藩主宗睦の遺徳をあおぎ、有能な家臣の補佐を得て、藩政改革を断行
国定忠治磔 ・1850＝26歳 尊徳報徳論 ・1851＝27歳 万次郎帰国 ・1852＝28歳 ペリー来航 ・1853＝29歳 開国開港 ・ ・1854＝30歳 松下村塾 ・ ・1856＝32歳	この年、父の隠居により、弟茂徳が美濃高須松平家十一代当主となる。 権中納言に昇進。 この年、弟容保が会津松平家の家督を相続。 炎上した内裏の再営に檜材を献上して尊皇の誠を表し、 領内に藩財政を公開し、献金を募り、負債の整理を果たす。 日米通商条約や、将軍継嗣問題で徳川斉昭・松平慶永に同調し、大老井伊直弼一派と鋭く対立、 三男義宜が誕生。徳川斉昭らと不時登城し、勅許を得ずに条約に調印した井伊直弼を詰問。隠居・謹慎を命じられ、弟茂徳が尾張家当主となる。もともと博物に興味を抱いて蒐集や写生図を描いており、謹慎中、写真術に傾倒し、現像や焼付けの研究に努め、
五ヶ国条約 ・1858＝34歳	この年、弟定敬が桑名松平家の家督を相続する。 井伊直弼が暗殺され、謹慎を解かれる(このとき慶勝と改名)と、 自らの肖像写真(湿板写真)の撮影に成功。
安政の大獄 ・1859＝35歳 桜田門外変 ・1860＝36歳 遣欧使節 ・ ・1861＝37歳 生麦事件 ・ ・1862＝38歳 8月18日政変 1863＝39歳	この年、弟定敬が京都所司代に就任。*幕府から正式に赦免、政治活動を再開。研究記録「旧習一新記」。 入京し参内、孝明天皇の信頼を得、擁護決行期限を奉答しに上洛した将軍家茂の輔翼を命じられ、天盃を賜り、帰藩。一藩二主の複雑な様相となって、茂徳が隠居、当主となった三男元千代義宜の後見につき、藩政の実権を掌握。藩校明倫堂学生登用法を定め、徒刑場を設け、武士に関する刑事判例集を編纂。 この年、弟定敬が京都所司代に就任。禁門の変で、長州藩追討の勅命が下る。将軍家茂の要請で全権委任条件に長州征討総督の就任を受諾。写真道具一式持参して、広島に着陣、首謀者長州藩三家老の首実検を実施。広島軍議で、長州藩に対して寛大な処置を取るよう諸藩の衆議をまとめ、撤兵を命じる。
薩摩藩士密航 1865＝41歳 薩長同盟 ・ ・1866＝42歳	その上で、長州藩への寛大な処置を朝廷に奏上するも受入れられず。兄弟間の亀裂も大きくなる。 第二次長州征討が始まるが、直後に将軍家茂死去。一橋慶喜が十五代将軍となったため、弟茂徳が一橋家の家督を相続し、茂栄と名乗る。さらに孝明天皇も死去。一方、朝幕融和を志し、
大政奉還 ・ ・1867＝43歳 明治維新 ・ ・1868＝44歳	朝廷が王政復古を号令して開催した小御所会議に参画後、十五代将軍慶喜に辞官納地を通告する。 *将軍家親族の立場ながら、佐幕派の重臣等を断罪(青松葉事件)。東海道等の近隣の諸大名や旗本に対して勤王誘引活動を行う。茂徳(茂栄)が東征大総督有栖川宮熾仁親王に前将軍徳川慶喜の寛大な処分を嘆願。会津藩が新政府軍に降伏、容保は謹慎、鳥取池田家に預けとなり、定敬は榎本武揚の軍艦で函館へ向かう。
戊辰戦争終 ・1869＝45歳 初の日刊新聞 1870＝46歳 廃藩置県 ・ ・1871＝47歳	軍功に対し、従一位。定敬は函館脱出し東京で謹慎。版籍奉還で、義宜が名古屋藩知事に就任するも、 自身が2代名古屋藩知事に就任するが、 廃藩置県により、免職。集中的に名古屋城の写真を撮って、上京。以後も、戸山荘や町屋など、貴重な江戸の原風景を記録を遺す写真家となって行く。
学問のすすめ 1872＝48歳 明治6年政変 1873＝49歳 初の民間工場 1875＝51歳 三つの反乱 ・1876＝52歳 西南戦争 ・ ・1877＝53歳 大久保暗殺 ・1878＝54歳 琉球処分 ・ ・1879＝55歳 ・ ・ ・ ・ ・1880＝56歳 明治14年政変 1881＝57歳 岩倉具視没 ・1883＝59歳	容保・定敬は赦免される。 明治天皇が徳川慶勝邸へ行幸。義宜が死去したため、家督を再相続して十七代当主となる。 義禮(高松松平家十一代頼聰二男)を養子とする 旧藩士を北海道に派遣、その後報告を受けて、開拓地を胆振国山越郡山越内村遊楽部に定め、 開拓にあたり、久方ぶりに四兄弟が集まり、銀座の写真館で撮影。旧藩士の一回目の移住が始まり、 本所横網町の邸宅に移る。 この年、容保が日光東照宮の宮司に就任。*隠居し、家督を養嗣子義礼に譲って、 開拓地遊楽部が山越内村から独立し、自らの命名で“八雲村”となる。 没した。 のち、八雲神社の祭神となる。